

北澤：文学の文法

文学の文法

文法形式に着目して文章の理解を深める試み

The Grammar of Literature

北 澤 尚

KITAZAWA Takashi

日本語・日本文学*

要旨

文学作品における表現の細部を、現代日本語の文法記述の成果を活用しつつ分析することによって、その破格な表現に対して文法的な説明を与えたり、作品中で使用されている文法形式の範列的な価値を明らかにしたりすることが可能である。本稿では、そのような方法論の実践として、現行の国語教科書の文章を取り上げ、特に、文中の接続表現の「～なり」、「ところが」と「しかし」、「すると」と「そこで」などの使用状況について考察し、それらの表現の価値について明らかにした。

キーワード：現代日本語、文法記述、「～なり」、「ところが」、「しかし」、「すると」、「そこで」

* Department of Japanese Linguistics